

学生も
大学も
地域も、
いっしょに育つ。

<https://ohmirakuza.net/>
滋賀県立大学 スチューデントファーム「近江楽座」—まち・むら・くらしふれあい工舎—

近江楽座

まち・むら・くらしふれあい工舎

2025

「近江楽座」＝学生の力を活かして、地域に学び、育ち、貢献できる場

「近江楽座（おうみらくぎ）」とは？

滋賀県立大学の” スチューデントファーム「近江楽座」- まち・むら・くらしふれあい工舎 -” は、地域貢献を目的とする学生主体のプロジェクトを募集、選定して、全学的に支援する教育プログラムです。

2004 年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」に採択され、2006 年度までの3年間の活動実績が大学発地域貢献の先進的な取組として、学内外で高く評価されました。そして、翌 2007 年度からは大学独自の予算を用いてプログラムを継続し、これまでに培ってきたノウハウや地域とのつながりを生かし、更なる活動を展開しています。

教育効果を高め、大学と地域の連携を深めるための3つの目標

- 地域の課題に大学・学生が取り組み、地域の活性化に向けて共に活動する。
- 学生が地域の方々と一緒に活動することにより、学内だけでは学べないことを体験する。
- 大学と地域が共同して、よりよい地域づくり・人づくりにつながるしくみをつくる。

3つのサポートシステム

近江楽座専門委員会・学生委員会・近江楽座事務局（地域共生センター）の連携の下、3つのサポートシステムにより、全学的に活動を推進しています。

- **活動助成システム**
「近江楽座」として選定されたプロジェクトの事業計画に基づき、活動に必要な事業費を審査し、助成します。
- **コンサルティングシステム**
教員の指導・助言に加え、行政や専門家の紹介、各種講習会の開催など、学生がプロジェクトを進めていくために必要なコンサルティングを行います。
- **活動情報の発信・共有システム**
中間報告会や活動報告会で活動の成果を共有・発信するとともに、ホームページや SNS、パブリシティなどにより活動の情報発信をサポートします。

プロジェクトタイプ

これまでの 21 年間で延べ 470 のプロジェクトが活動を展開しています。

- **A プロジェクト（学生主体型プロジェクト）**
SDGs の視点を踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を募集し、プレゼンテーションと審査を行い、支援するプロジェクトを選定しています。
また、これまでの近江楽座での実績をもとに更なるステップアップを目指し、活動資金の支援を必要としないプロジェクトを特別に S プロジェクトとして選定しています。
- **B プロジェクト（地域協働型プロジェクト）**
自治体や企業、団体等から依頼のあった課題の中で、学生が中心になって取り込むのがふさわしいものについて、学生主体のグループを募集し、指導教員、地域共生センターおよび依頼先とが協働でプロジェクトに取り組みます。現在、「県営開出今団地コミュニティ再生プロジェクト」（2016～）に取り組んでいます。

A プロジェクト
「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動プロジェクト
↳ S プロジェクト
活動資金の助成を必要とせず、これまでの実績をもとにステップアップを目指す取組

B プロジェクト
学生が主体となって取り組むのがふさわしい自治体や企業等から提示された課題に、学生チームと依頼先とが協働で取り組むプロジェクト

未来人材基金への寄付が
近江楽座の活動資金になります。



↑詳細はこちらまで



チームの活動が関係しているSDGsを数字のアイコンで示しています。

県営開出今団地コミュニティ再生プロジェクト



知的障がいを持つ方と学生が共に活動することで、互いに成長できることを目指しています。具体的には、毎月の定期活動として茶道体験や油絵制作のイベントを行ったり、展示会やコンサート企画、運営も行なっています。障がい児・者の自立支援や余暇活動の充実に向けた取り組みを通じて地域の方々と交流し、障がい児・者を支える地域づくりに推進することにもたずかれています。

地域博物館プロジェクトの主な活動は、地域の文化を調査・保護し、学生自身が学習のよき活動を行い、「地域博物館」の企画運営を通して、地域の方々に伝える歴史や文化を還元することです。活動を広め、多くの方に歴史や文化に触れて貰うために地域のイベントで関わりあったり、博物館の歴史展示運営を通じて情報発信や展示デザインも幅広く実践的に参画していることがあります。

豊野町内で空き家となった民家や蔵を町の貴重な資産として未来へ残すため、22年前に改修活動を開始しました。現在は改修に留まらず、地域のイベント参加や企画を通じて、豊野町のまちづくりのサポートをしています。また、改修した蔵を活用したバーの運営や、空き家から出た古着をリメイクする活動なども行っています。

政所町で栽培されている茶葉の生産・販売 PR 活動を目的として活動しています。茶農家さんからお借りしている畑で、雑草防除や施肥など 1 年を通して畑作業を行い、毎年おいしいお茶が育つよう畑を維持しています。お茶摘みでは、卒業生の方や外部の方とも交流できます。販売活動では、学外イベントにも積極的に参加し、政所茶の魅力を自分たちの言葉で地域内外に伝えています。

東近江市の人口約十数人の山里集落である賀川町を拠点に、古民家を活用したシェアスペースづくり、地域資源を利用したモノづくり、季節毎のイベントを実施し、集落を未来に存続させるために活動しています。賀川町には多様な人々が集うため、私たちは、地域に関係する多様な人々を繋ぎ架橋となり、集落の維持存続にアプローチできるような活動の実践を目指しています。

吾妻市三津屋町の古民家を拠点とし、琵琶湖岸地域で暮らし続けることの「意味」を模索しながら、現代に合わせた暮らし方を実現します。今年度は伝統的な土蔵を改修し、アートギャラリーとして地域に開きます。改修作業を介して、土蔵の可能性を模索すると共に、土を媒介とした新たなコミュニティの醸成を目指します。

私たちはフィリピンを拠点として、「PRDP(Plastic Recycle Design project)」という活動を実施し、海外の子供達とワークショップを行いました。また、フィリピンでの女性支援や彦根市での「ひこねで朝市」と活動の幅は多岐に渡ります。私たちはフィリピンの環境問題について関心で理解を深め、滋賀県内で発信し、プラスチックゴミ問題へ関心を高めていきます。

んには！リソースです。リソースでは、夏野菜やサツマイモから、ジャッパ子などのちょっと珍しいものまでいろんな作物にチャレンジしています。畑の作業だけでなく、収穫した野菜を都市へ出したり、焼き芋パーティーなどのイベントに活用しています。また、日夏町の方々に喜んでもらえるようなイベントや取り組みも、少しずつ形にしていく予定です。

「育てようね」、「つながらず」、どちらにも導く、ぬく場所を目指しています。

ちは前年度まで、近江八幡市の沖島において、流木や地域の材料を使って「RYUBOKU HUT」という体験所を設計・施工・メンテナンスしてきました。この成果を踏まえ、まだ解決されていない流木の解決に向け、さらに琵琶湖流域全体にまで視野を広げ模索します。

調査票と規定を締結し、県営住宅の空き室を活用して地域コミュニティの活性化を図る取組を進めています。活動は3つの柱があり、1目がシアタハウス。学生が実際に暮らしながら地域と関わる活動を、1ヶ月ごとにしています。2目が学生生活の拠点「商業エリア」の運営。ミーティングや作業、情報共有、発信ができる共有空間として活用しています。3目が土地と団体のイベント等を行っています。

私たちは「地域のさまざまな人々が心も体も生き生きと健康な生活が送れるよう支援する」ことを目的として、地域の方々と協働しながら未来の看護に携わる学生ならではの視点で地域を捉え、活動しています。具体的には、病院での患者さんやご家族との交流、商業施設での健康増進イベントの開催、町内会や老人会への参加など、幅広い活動を展開しています。

男鬼（オオリ）プロジェクトは、1971年に廃村となった彦根市男鬼集落を舞台に、元住民や学生と共に集落の再生を目指す取り組みです。茅葺民家や小川が残る美しい原風景と、豊かな里山資源を活かし、整備活動やワークショップを通じて、学びと交流の場としての再活用を進めています。また、同じ抱えている他の廃村や限界集落のモデルケースとなることを目指します。

夜を消してキャンデルのあかりだけで過ごす「エコでスローな夜」を企画することをモットーに活動しています。主に、滋賀県内の寺院から廃棄予定のろうそくをいただき、リサイクルキャンデルの製作・販売、地域でのキャンデルナイト開催、キャンデル製作体験を実施しています。これらの活動を通して、地域の方々とつながりを持ちながら環境について考えてもらう機会を作っています。

たちは菜の花やひまわりを育て、その種から油を搾り、その油を用いてディーゼル燃料の精製・利用を目的とした資源循環型社会の形成を目指しています。この活動を地域のイベントなどを通して子供たちに知ってもらうことで、科学の面白さを感じてもらい、現代のエネルギー問題について考える仲間が増えることを願っています。

竹・竹林は生態系の特長を生かすだけでなく、景観の悪化や倒竹による
身被害等をも引き起こす可能性があります。大学のすべり道を流れる犬上
周辺にも荒れた竹林が多く、私たちは定期的に竹林整備を実施し、こ
らの問題の抑制に尽力しています。さらに、竹を「持続可能な資源」
捉え、その消費を促すアイデアを打ち出すことで資源としての価値の
上にも取り組んでいます。

このプロジェクトは、滋賀県上郡多賀町八重葎（やえな）地区フィールドから、地方の中間地域で深刻化している空き家・耕作放棄問題に取り組んでいます。山間家・耕作放棄地の活用と、地域の豊資源活用を併せて進めることで、地域の活性化と持続可能な地域社形成を目指します。また、地域活性化のため、地域の行事にも積極的に参加します。

知的障がいを持つ方と学生が共に活動することで、互いに成長できることを目指しています。具体的には、毎月の定期活動として茶道体験や油絵制作のイベントを行ったり、展示会やコンサート企画、運営も行なっています。障がい児・者の自立支援や余暇活動の充実に向けた取り組みを通じて地域の方々と交流し、障がい児・者を支える地域づくりに推進することにもたずかれています。

地域博物館プロジェクトの主な活動は、地域の文化を調査・保護し、学生自身が学習のよき活動を行い、「地域博物館」の企画運営を通して、地域の方々に伝える歴史や文化を還元することです。活動を広め、多くの方に歴史や文化に触れて貰うために地域のイベントで関わりあったり、博物館の歴史展示運営を通じて情報発信や展示デザインも幅広く実践的に参画することができます。

地域博物館プロジェクトの主な活動は、地域の文化財を調査・保護し、学生自らが学芸員のような活動を行い、「地域博物館」の企画運営を通して地域の方々に地域に眠る歴史や文化を還元することです。活動を広め、多くの方に歴史や文化に触れて貰うために地域の方とイベントで関わりあったり、博物館の展示運営を通して情報発信や展示デザインなど幅広く実践的に学んだりすることができず。

放置竹林問題について地域と学生が協力して解決に取り組む活動です。

竹林整備のために伐採した竹を用いて建築物を建てることで、地域の交流の場となることを目指しています。2012年より活動を開始し、今では放課後に子どもたちが遊びにくる場所や学びの場としても親しまれています。これからも人々に愛されるよう地域に寄り添い、活動を継続していきます。

日本で唯一、湖でが暮らす島「沖島」。人口減少と少子高齢化が進む沖島で「学生にも何かにできることはないか」座・沖島はそんな思いで始まりました。私たちは、島民の方のつながりを大切に、祭りや運動会などの島内行事への参加や耕作放棄地での畑作業を通して地域づくりのお手伝いを行っています。沖島で「まなぶ・まじわる・ささえる」をモットーに、沖島を未来へつなげていきます。

かみおか古民家活用計画は、地域に残る古民家を活かし、交流やイベントを通じて人と人をつなぐ活動を行う団体です。「みんなで楽しむ、みんなで変える」をテーマに、誰もが居心地よく、安心して集える場所づくりを目指しています。

とくろプロジェクトは、彦根市の高宮町で「新しい風を吹かせること」を目標に、伝統的な蔵を持つ古民家を改装したカフェでギャラリー喫茶とくらを営業している。学生と地域の人々、ギャラリー展示をする家、中山道を歩く観光客などが、出会い、交流する場所となるよう、メンバー間で同工夫しながら日々活動しています。

んには！わたしたちはっしん歴史遺産①近江は、滋賀県の歴史遺産、
と財の保全と集落の持続可能性を高める情報発信活動を目的として活
をします。設けられた3年目(右側の軸を採しているところは不安
な状態ではありますが、これからも様々なことに挑戦しつつ確かな
礎を築き上げていきます！

2018年6月宣言